

平成 24 年 9 月 21 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 24 年 9 月 21 日 (金曜日)

午後 2 時 45 分から午後 3 時 45 分まで

2 場 所 東北中学校 会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 羽賀 友信 委 員 中村 美和
委 員 青柳 由美子 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長	佐藤 伸吉	子育て支援部長	矢沢 康子
教育総務課長	若月 和浩	教育施設課長	安部 和則
学務課長	近藤 知彦	学校教育課長	田中 仁
子ども家庭課長	佐藤 正高	保育課長	栗林 洋子
中央公民館長	武樋 正隆	中央図書館長	品田 満
科学博物館長補佐	村上 昭夫	学校教育課主幹兼管理指導主事	関谷 祐二
学校教育課主幹兼管理指導主事	山田 修	学校教育課主幹兼管理指導主事	大矢 慎一

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	新沢 達史	教育総務課庶務係長	水内 智憲
教育総務課庶務係	平澤 司		

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 54 号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について
3	第 55 号	附属機関委員の委嘱について

7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会 9 月定例会を開会する。

◇日程第 1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、中村委員及び加藤委員を指名する。

◇日程第 2 議案第 54 号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

(大橋委員長) 日程第 2 議案第 54 号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について を議題とする。事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 11 月 23 日に開催する長岡市教育委員会表彰の被表彰者の決定についてである。被表彰候補者については、脇野町小学校みつば児童会、東北中学校柏友会、南中学校絆翔学年の 3 件である。功績等の内容については、記載のとおりである。なお、詳細については定例会前のヒアリングで説明したので割愛させていただきます。

(大橋委員長) それでは、定例会前に実施したヒアリングを踏まえ、各被表彰候補者について、被表彰者として適しているか否かを決定したい。まず、脇野町小学校みつば児童会について、被表彰者として決定してよいか意見を求める。

(青柳委員) このような案件の場合、教育委員会として積極的に表彰しているのか。

(若月教育総務課長) 特筆すべき功績のある取り組みについては、積極的に表彰し

てきた経緯がある。

(青柳委員) 被表彰者とするか否かの判断基準として、明確な規定はないのか。

(若月教育総務課長) 特に規定はないが、功績や貢献度が高いもの、ボランティア活動については表彰してきた経緯がある。

(大橋委員長) 脇野町小学校みつば児童会について、被表彰者として決定してよろしいか。

[全員了承]

(大橋委員長) それでは、脇野町小学校みつば児童会を被表彰者と決定する。次に、東北中学校柏友会について、被表彰者として決定してよいか意見を求める。

(中村委員) 地下道の清掃活動は、バイパスが開通してから今日に至るまで、長年にわたる活動である。

(大橋委員長) 過去に活動が新聞に取り上げられるなど、長年にわたる地域への貢献度は高い。J R C委員会が中心になり、生徒が主体的に活動していることが評価される。

(加藤教育長) この活動を通して生徒が誇り、プライド、自信を得ている。そのことが伝統校としての東北中学校の基礎になっている。

(羽賀委員) 「花を育てることにより心が育つ」と生徒自身が言っている。このことを評価したい。自主企画のボランティア活動として、募集から実践まで生徒が主体的に行っていて、今後も続いていく波及効果のある活動であることも評価したい。

(大橋委員長) 東北中学校柏友会について、被表彰者として決定してよろしいか。

[全員了承]

(大橋委員長) それでは、東北中学校柏友会を被表彰者と決定する。次に、南中学校絆翔学年について、被表彰者として決定してよいか意見を求める。

(羽賀委員) 長岡の歴史を知るために意義深い活動である。

(大橋委員長) 平和教育は大切である。生徒が自分たちで年月をかけて調査、企画、上演したことに意味があり、意義深い活動である。また、個人の力ではなく、学年全体で取り組んだことに意味がある。生徒の真剣さが伝わってきた。

(羽賀委員) 戦争体験者の言葉を記録に残したことは地域社会への貢献である。

(大橋委員長) 南中学校絆翔学年について、被表彰者として決定してよろしいか。

[全員了承]

(大橋委員長) それでは、南中学校絆翔学年を被表彰者と決定する。

◇日程第3 議案第55号 附属機関委員の委嘱について

(大橋委員長) 日程第3 議案第55号 附属機関委員の委嘱について を議題とする。事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 長岡市予防接種健康被害調査委員会は、元は市長の附属機関であったが、平成19年度に教育委員会の附属機関となった。予防接種時の健康被害があった場合に補償するもので、平成19年度以降開かれたことはない。片桐幹雄氏、齋藤昭彦氏の2名を新たに委員として任命したい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 委員はこの2名だけなのか。

(若月教育総務課長) この2名を含め5名である。

(羽賀委員) 被害がなければ開かれない委員会なのか。

(若月教育総務課長) そうである。

(佐藤子ども家庭課長) 補償自体は市長事務部局の担当であり、その補助執行として教育委員会が執行している。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告事項に入る。報告事項として、9月議会における教育委員会関係の質問事項について、事務局の説明を求める。

(佐藤教育部長) 9月議会における一般質問として、5名の議員より質問があった。

藤井議員からは、長岡市内の高校、大学を卒業しても市内での雇用に必ずしも結びついていないため、若者の企業支援が課題である。勤労や起業に関して小・中学校ではどのように取り組んでいるのかとの質問があった。このことについて、小・中学校では、教育活動全体を通して望ましい勤労感、就労感の育成に取り組んでおり、夢や希望を持つことの大切さや、強調性やコミュニケーション能力などの基礎的能力の育成に重点を置いて教育を行っている。具体的な施策として、働く意味、厳しさ、やりがいを経験する職場体験を実施したり、失敗しても諦めずにチャレンジする心を育むため、一流のスポーツ選手を招いて特別授業を行い、一流選手の挫折体験を聞く授業を行ったりしていると回答した。高見議員からは、子どもたちを取り巻くスポーツ環境の課題について、栃尾地区の中学校で相次いで柔道部が廃部になるなど、少子化や顧問の先生の不足等によって部活動が成り立たない事態が生じている。教育委員会としてどのように認識し、どのような取り組みを行っているのかとの質問があった。このことについて、中学校の部活動数が僅かだが減少している現状を説明し、その上で、夢づくり教育の一環として、14 種目のスポーツに限り市内の全中学生が自由に参加できる集中指導の機会があり、市内の中学生の半数近い約4千人が参加していることや、総合型地域スポーツクラブの推進について、地域の気運が盛り上がれば市としても支援していると回答した。

(矢沢子育て支援部長) 笠井議員からは、子育て支援策について、病後児保育事業の実績と病児保育事業の取り組みについて質問があった。このことについて、病後児保育の昨年度実績として、4箇所を実施し、809 人の利用があったと回答した。また、今年の11月から新たに病児保育を開始することになっており、その利用方法等についても回答した。

(佐藤教育部長) 広井議員からは、中小企業における人材確保について、中学生のころから職業意識を創生するために専門高校を活用してはどうかとの質問があった。このことについて、8月に県主催の県立専門高校メッセがアオーレ長岡で開催され、市内中学生約800名が参加したことや、これまでも中学校では進路指導として体験入学を実施していると回答し、今後、関係機関と協議して専門高校メッセ長岡版を開催してはどうかと提案した。

(矢沢子育て支援部長) 桑原議員からは、食物アレルギー対策について、表町小学

校地域の親が心配している声を聞いている。どのような対策を講じているのかと質問があった。このことについて、食物アレルギーを持つ小・中学生は 655 人、保育園児は 336 人、幼稚園児は 65 人であること。給食の除去食や代替食対応の小・中学生は 374 人、その内、弁当を持参しているのが 12 人、保育園児は 297 人、その内、弁当を持参しているのが 1 人、幼稚園児は 60 人となっていることを説明した。その上で、保育園、幼稚園入園前の子どもたちは、ひとりひとり向き合って対応することが大切であり、赤ちゃん検診や乳幼児健診等で実態をつかみ、これまでも丁寧な対応をしていること。給食では除去食や代替食として、原因となる食材を単に取り除くだけではなく、代替食材で栄養のバランスをとっていること。除去してもアナフィラキシーショックが起きた場合は、主治医や保護者と協議の上、自己注射を接種すること。このことに関して、保育士や教師も接種研修を受けていること。今後も給食対応は安全安心第一に丁寧に取り組んでいくことなどを回答した。

(佐藤教育部長) 9月議会における文教福祉委員会では、8名の議員より質問があった。藤井委員からは、集団登校時の躰について質問があった。このことについて、遅れてくる生徒にルールを守るよう指導する必要があるれば、学校から保護者に連絡していると回答した。木島委員からは、福島県から避難している児童生徒の甲状腺検査について質問があった。このことについて、福島県から本市に避難している児童生徒数は 111 人であり、甲状腺検査を実施することが決定したので、今後対応していくと回答した。また、いじめについても質問があった。このことについて、いじめの件数の推移について説明した上で、毎春、市内の全小・中学生と関係機関にいじめ相談機関一覧表と相談カードを配布していることや、ホームページによる周知を強化していくことなどを回答した。木島委員から、インターネット掲示板に相談や悩み事を書き込んでもらってはどうかという意見があったが、掲示板はいたずらされる恐れがあるので消極的である。インターネットに相談機関の情報をわかりやすく掲載し周知に努めたいと回答した。広井委員からは、通学路の安全点検実施状況と対応について質問があった。このことについて、3省庁合同調査を8月に実施し、教育委員会、学校、道路管理者及び警察が実際に歩いて、重点的危険箇所 91 箇所を調査し、11 月末までに調査結果をまとめると回答した。また、児童生徒に対する日本文化の伝承についても質問があった。このことについて、市内の中学

生 30 人が現在フォートワースに派遣されており、出発前に茶道、華道、武道、書道及び着付け等、8 回の研修を受けてから派遣していることや、学校においても武道が必修になるなど、日本の伝統文化の伝承が教育基本法に定められていると回答した。永井委員からは、文教福祉委員会で質疑のあった事項にかかる教育委員会での対応について質問があった。このことについて、議会後、直近の定例会で教育委員に質疑事項を説明し、議論していると回答した。また、中学 3 年生の進路指導についても質問があった。このことについて、進路が決定していない生徒を学校で丁寧な指導しており、就職先への訪問については可能な限り教員が対応していると回答した。更に、シティズンシップ教育についても質問があった。このことについて、シティズンシップ教育とは 10 年程前にイギリスで始まったものであり、選挙で投票しないなど、社会や政治等に関心のない人の社会性を高める教育であること。文部科学省ではなく経済産業省が使い始めた用語であるため、シティズンシップ教育という形で指導していないが、積極的に社会に参画、貢献するような教育は実施していることなどを回答した。

(矢沢子育て支援部長) 中村委員からは、年少扶養控除の廃止等に伴う私立幼稚園就園奨励費補助金の対応について質問があった。このことについて、私立幼稚園就園奨励費補助金は保護者の所得に応じて決定されること。年少扶養控除の廃止に伴い、住民税が増えて補助金が減額になる場合が想定されること。このような場合の対応について、国が途中で方針を変更したことにより、長岡市のみならず他の自治体も困惑しているが、長岡市としては、国が最初に示したモデルに基づいて取り組んでいくと回答した。

(佐藤教育部長) 大平委員からは、報告件数にあらぬいじめの発見と指導について質問があった。このことについて、文部科学省では、本人が精神的苦痛を感じたらいじめであると定義している。いじめには様々な種類があり、悪口、言い争い、暴力、恐喝等、中には犯罪になるものもある。本人が辛いと感じるかどうかで決まるため、あくまで主観の問題となる。タフな子どもはめげないので、報告件数にあらぬいじめは存在し得る。いじめのチェックリストはあるが、それに従うだけでなく、各教員がいじめに対する感性を磨くことが大切である。いじめられた場合には、教育的配慮による転校もあり得ると回答した。また、子どもを取り巻く経済

的狀況と就学援助についても質問があった。このことについて、全ての小・中学校に就学援助制度を周知している。教員に対しては校内で研修を行って、制度について勉強してもらっていると回答した。小坂井委員からは、学校プール薬剤の取扱いについて質問があった。このことについて、昨年までは教育委員会が薬剤を購入して学校に配布していた。今年から予算をつけて学校でプール薬剤を購入するように変更した。予算が少なく購入できない学校があるようなので、追加配当すると回答した。古川原委員からは、寺泊水族博物館の現状について質問があった。このことについて、寺泊水族博物館は塩害で非常に傷みが激しいので、しっかりと補修して、あと10年はもたせる予定であること。その間に新しい水族博物館の構想計画を作る必要があると回答した。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成24年度就学時等家庭教育講座の実施、栃尾青少年育成員会創立30周年記念事業、第13回ながおかポニーカーニバルの3件について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 今年度も就学時等家庭教育講座を、全ての保護者が集まる就学時健診時に実施する。保護者向けの家庭教育講座であり、40分から50分程度で生活習慣等の常識的なことを伝える。講師として、教育委員会の管理指導主事や指導主事が話をするところに特徴がある。市内小学校60校中56校で実施予定であり、10月に集中的に実施する予定である。続いて、栃尾青少年育成員会創立30周年記念事業についてである。同会は昭和57年に発足して今年で30周年を迎えた。10月10日に栃尾市民会館にて、杉山裕太郎氏より記念講演をしていただく。事業実施は栃尾青少年育成員会が主体となっていく。会場には栃尾高校全生徒や、地元関係者が参加予定である。当日夕方より福田屋旅館にて記念祝賀会も予定している。続いて、第13回ながおかポニーカーニバルについてである。9月30日に千秋が原ふるさとの森にて開催する予定である。この会場では初めての開催となる。当日はハイブ長岡ですこやか・ともしびまつりが開催され、同会場にて緑の百年物語も開催されるので、多数の来場者を期待している。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 就学時等家庭教育講座について、要旨の概略にあるような「子育ては、夢とロマンに満ちた、親も一緒に成長できる素敵なおこと」と同時に、「親次第でいかようにもなる」というような強いメッセージも伝えてほしい。また、「心の安定、安心は温かな、ぬくもりのある家庭と親の愛情から」とあるが、学校で多少つらいことがあっても家庭が子どもをしっかりと支え、温めてくれる安全基地になっているかどうかを重要であることをしっかりと伝えてほしい。若いお母さんから、いじめの問題について質問があると思うので、はぐらかすことなくしっかり対応してほしい。いじめは極めて多様である。いじめが発生してからでは遅い。就学前の保護者に是非伝えてほしい。

(佐藤子ども家庭課長) 講師担当者説明会が来週あるので、周知徹底したい。

(加藤教育長) 現場の校長が言いにくいテーマであるため、講師から講演してもらうのだから、思い切った内容にしてほしい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、土田義則写真展「秋彩色」、特別展「重要文化財 焼町土器と火炎土器」、第2回長岡藩主牧野家の至宝展「藩主のサインを集めて」の3件について、事務局の説明を求める。

(村上科学博物館長補佐) 土田義則写真展「秋彩色」を9月1日から10月1日まで旧長谷川家住宅にて開催する。展示内容は各地域の風景や花火の写真20点程である。続いて、特別展「重要文化財 焼町土器と火炎土器」についてである。群馬県渋川市、十日町市、南魚沼市、津南町、湯沢町より土器を借用して展示する。9月29日には、群馬県渋川市赤城公民館長から記念講演をしていただく。参加料は無料で、参加者は展示室を無料で観覧できる。続いて、第2回長岡藩主牧野家の至宝展「藩主のサインを集めて」についてである。9月30日から10月8日の期間で、アオーレ長岡3階の市民交流ホールCにて開催する。初代藩主牧野忠成の書状や、長岡藩主代々の花押18点等を展示する。入場無料である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はないか。

(武樋中央公民館長) 9月28日に長岡市立劇場にて、熱中・感動・夢づくり教育の一環として、越後オペラ「みるなの座敷」ハイライト鑑賞教室を開催する。各学校には案内済みである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。これをもって協議報告事項を終了し、本日の定例会を終了する。

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に子育ての駅とちお「すくすく」、東北中学校及び山本中学校を訪問した。委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

(青柳委員) 子育ての駅とちお「すくすく」は、水曜、金曜、土曜の週3回運営している。日曜日も運営してほしいという声もあるようだが、長岡市内にはこのような施設がここだけでなく他に3箇所あるため、利用者は上手に各施設を利用して満足感を得ているようだ。山本中学校では生徒たちと給食を一緒にとった。アイコンタクトをとり合いながら楽しく会話ができて良かった。純朴な子どもたちであった。地域のクリーン活動を学区の小学校と合同で行っているとのことだった。

(中村委員) 子育ての駅とちお「すくすく」は、市がNPO法人に委託している事業である。イベントはあまりないが、利用者が多く、NPOのノウハウが活用されていると感じた。隣接する道の駅と連携していることも良い。山本中学校は少人数であるため、生徒一人ひとりに向き合った教育が可能である。今回、ランチルームでアットホームな雰囲気の中で生徒たちと給食を食べた。

(大橋委員長) 子育ての駅とちお「すくすく」は施設長が10年来のノウハウを活かして上手に運営している。平日は50人、土曜日は100人近くの利用者がある。アットホームな雰囲気で保育園、幼稚園等と連携しながら独特な取り組みを行っていた。山本中学校の校長は、生徒自らが課題や困難に立ち向かう姿勢を期待しており、生徒は優しい印象のある子どもたちだった。

(羽賀委員) 子育ての駅とちお「すくすく」はニーズの把握がうまい。また、他の子育ての駅「ぐんぐん」や「てくてく」などと連携していることも良いことだと思

う。東北中学校は生徒数 848 人の新潟県下 3 番目のマンモス校である。明るく安定感があり、教師の力量を感じる。若い先生が多いことも特徴の一つである。本来、学校は社会の縮図であるので、多様な個人がいる中でもまれることが大事である。進取・敬愛を実践し、ボランティア活動も盛んであり、「地域から世界へ」と仲間を誘って活動している。教師が個々の生徒と向き合っていて、教師も生徒も居心地の良い学校を目指している。

(加藤教育長) 東北中学校は安定していてうれしく頼もしく感じた。校舎の改修工事が始まり、環境が悪い中がんばっている。生徒に自信があり安定していることから、大規模校の良さを活かしていると感じた。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員